

食育白

Vol.24 食と人類の歴史と現状

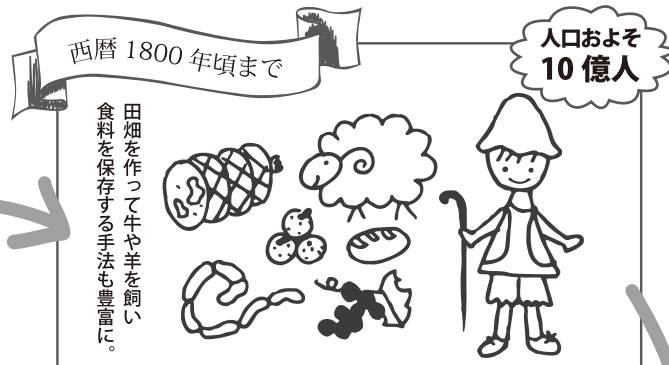
「食」の根っこを考えよう

子供たちは夏休み、自由研究に「食と人類」といった課題はいかが？ 食のバラエティ豊かなこの国で実感するのは難しいことですが、食料自給率約40%はかなり深刻な数字です。さらに残念なことに、外国から買ってまで確保した食糧のおよそ24%を生ごみとして廃棄しています。食べ物を粗末にすることをばちあたりと考えていた日本人が、大量廃棄の道へ進むに至った経緯には、商品化された「食」に一因があります。便利な加工食品や切り身で売られる肉や魚、袋詰めされた野菜や果実との接触が多くなった昨今では、「食＝他の生物の命」という揺るぎない事実がパッケージの陰に隠れ、もったいない精神を薄れさせてしまったのかもしれない。廃棄の半分は家庭での食べ残しや賞味期限切れなど、私たちの無計画な食料消費によるものです。

現在も地球の人口のうち、およそ7人に1人が飢餓状態にあるといわれます。食糧危機や飢餓人口、この国はその大きな問題と無縁ではありません。低い自給率や「放食」と呼ばれる食べ残しの現状を知り、「食」について考え直してみましよう。



自然のままの恩恵である動植物を狩猟・採集。食料を手に入れ続けるために定期的に移動して生活していた。



定住地で食料となる動植物を育てて増やす農耕・放牧が発達し、計画して生産できるようになった。



石油をエネルギーとして人類はさらに栄え、100年で約6倍に。急増による食糧問題から動植物の遺伝子組み換え研究が進む。



産業革命・植民地支配により農業技術も効率的に改革され、食料の生産力が飛躍的に向上。人口は100年で約2倍に。

2050年には世界人口が90億に達するとの国連予測も。自給率の低い日本にとって、地球規模の食料不足は深刻に受け止めるべきテーマです。大きな問題ですが、各家庭の買い物や食事から、見直せることもきっとあります。